

みんなの議会だより

題字：鮫川小学校

6年 せきね ゆうな 関根 優奈さん

12
月
定
例
会

令和7年度一般会計・特別会計・公営
企業会計補正予算など可決 2~3
新年のあいさつ・議案調査 4~5
一般質問に7議員登壇 .. 6~13
ふるさと鮫川への想い 14



12月定例会の
あらまし

12月定例会が12月9日から11日までの3日間の会期で開催されました。
第1日目に、一般質問を行い7名の議員が登壇し、防犯対策、空き家放置による地域課題と対応の必要性や義務教育学校についてなどを取り上げ、村政を質しました。
次に、鮫川村敬老祝金等支給条例の一部を改

正する条例など6議案や、令和7年度補正予算等を含む8議案の提案理由の説明がありました。
第2日目に、総務文教常任委員会と産業厚生常任委員会の合同で議案調査を開き、議案を審議しました。
最終日に、審議した条例、補正予算等を含む14議案を原案のとおり可決しました。

次世代を担う子どもたちにも
新しい教育環境の整備を



主な条例制定・改正

鮫川村乳児等通園支援事業の設備及び運営に関する基準を定める条例

令和8年度から乳児等通園支援事業を実施するにあたり、事業の設備及び運営等の基準を定め、適正な実施体制を整えるため、新たに条例を制定

鮫川村敬老祝金等支給条例の一部を改正する条例

祝金の支給基準日を9月15日から9月1日に変更し、事務処理の適正化を図るための条例の一部改正

鮫川村村民保養施設条例の一部を改正する条例

物価高騰に伴う経費の増加により、令和8年4月から入館料を見直し、適正な運営を確保するための条例の一部改正

- ◆ 高齢者(65歳以上) 400円 → 500円
- ◆ 一般 …………… 600円 → 700円
- ◆ 小・中学生 ……… 400円 → 500円

※午前9時30分から午後8時までの入館料のみの改正
午後5時以降の入館料は据え置き



令和11年度

補正
予算
一般会計

義務教育学校

会計別
補正予算状況

会計別			補正額	補正後の予算額
一般会計			1億6900万円	39億4400万円
特別会計	国保	事業勘定	347万円	5億1615万円
		直診勘定	126万円	5709万円
	介護保険		100万円	5億5304万円
	学校給食センター		14万円	1億487万円
公営企業会計	簡易水道事業	収益的収入	△169万円	9757万円

補正予算の主な事業(一般会計)

歳入		歳出	
地方交付税	6112万円	積立金(財政調整基金)	6112万円
寄附金	65万円	総務費	
地方創生応援税制寄附金 (企業版ふるさと納税)	65万円	補助金	赤坂中野区集落センター (床改修工事) 100万円
			赤坂西野区民センター (空調設備取換工事) 19万円
			防犯灯修繕料 162万円
		民生費	委託料 支障木伐採業務 (特別養護老人ホームの法面に ある桜の枝等の伐採) 96万円
			扶助費 高齢者にやさしい住宅 改修費 36万円
		農林水産業費	補助金 学校給食米栽培奨励事業 (米価高騰による買入れ価格の 見直し等) 72万円
			委託料 広葉樹林再生事業 整備業務 1091万円
		教育費	
		委託料	公立学校等 複合施設
			地形測量業務 1000万円
			地質調査業務 4500万円
			用地造成実施 設計業務 △6000万円
			用地造成基本 設計業務 △1000万円
			用地造成基本設計 応用測量業務 2200万円



12月臨時会

12月24日に召集され、一般会計補正予算及び工事請負契約の締結の2議案が提出され、原案どおり可決しました。

民生費

- ◆ 物価高騰対応非課税世帯等支援給付
低所得世帯に対し、1世帯あたり2万円を支給
- ◆ 物価高対応子育て応援手当
児童手当受給者に対し、こども一人あたり2万円を支給

商工費

- ◆ 地域げんき商品券発行
村民一人あたり2万5千円分の
商品券を配布

新年のごあいさつ

議長 前田 武久

謹んで新春のご祝辞を申し上げます。
日頃より皆様には当議会に對しまして、ご理解あるご支援とご協力を賜り、心から、敬意と感謝を申し上げます。

さて、当議会では、昨年七月に村民皆様、そして同僚議員協力のもと、鮫川村議会基本条例に基づき、議会報告会を開催しました。任期の折り返し地点であり、村民皆様の代弁者として、議員の務めであります村政を質す、一般質問を報告いたしました。出席された皆様から寄せられた多くの貴重なご意見、要望等いただき、それらを十分に検討、考慮しまして議会活動に反映させていく所存であります。

現在、村が進めております義務教育学校建設につきまして、広報さめがわでも述べさせていただきましたが、昨年十二月全員協議会で建設地を青少年広場に決定したとの報告が、宗田村長からありました。
今後、着工に向けた説明を受け協議を交え、本村の将来像を見据え適正なる学校規模の構築を図るべく、議会として、提言等してまいります。

また、過疎化（人口減少・空き家対策）、農林・商工・畜産（後継者問題）、インフラ整備、中山間地の荒廃、福祉、医療等、行政課題が山積しております。

住民優先、安心して住み続けられる村づくりをめざすため議員一同、任ある職責を全力で果たす所存でありますので、なお一層のご協力をお願い申し上げますと共に本年が皆様にとって最良の年となりますようご祈念申し上げ念頭のあいさつといたします。



各議員の四字熟語

新年にあたり各議員の想いを四字熟語で表現しました

窪木 浩一
てんてきせんせき
点滴穿石
小さな力、わずかな努力でも根気よく続ければやがて大きな成果を成し遂げられること。

本郷 弘義
いちりゅうまんばい
一粒万倍
稲の一粒はやがては一万粒になる。一つの善い行いは、やがては多くの報いを得られる。

青戸 義之
しんしけいしゅう
慎始敬終
物事を手抜きをせずにやり遂げること。

森田 重男
きんけんりつこう
勤儉力行
慎ましく仕事に励みながら努力を重ねること。

森 隆之
こううんりゅうすい
行雲流水
流れゆく雲や水のように、物事に執着することなく自然の流れに身を任せること。

遠藤 貴人
けいてんあいじん
敬天愛人
人間として正しい道を歩みながら、すべての人々を愛して思いやること。

北條 利雄
ゆうおうまいしん
勇往邁進
目標に向かって、ひるまず、ためらわず、勇ましくまっすぐに進むこと。

緑川 茂
せいしんせい
誠心誠意
うそ偽りなく、真心をもって物事に取り組むこと。

議案調査

提出議案を徹底調査



事業内容の説明を受けた合同議案調査

公立学校等複合施設建築事業債に1億690万円
令和7年度一般会計・特別会計・公営企業会計補正予算を総務文教・産業厚生両常任委員会で調査しました。

総務文教常任委員会

問 公立学校等複合施設建築事業債 1億690万円

答 地質調査業務、施設建築実施設計業務に係る起債申請額確定による増額補正

問 集会施設改修事業補助金 119万円

答 中野区集落センター床改修工事補助金100万円、西野区民センター空調設備取換工事補助金19万円

問 体育施設漏水調査業務 19万円

答 トレーニングセンター幼児プール漏水調査

産業厚生常任委員会

問 マンホール蓋設置工事 37万円

答 設置される地域をモチーフにポケモンをデザインしたマンホール蓋を株式会社ポケモンから村に寄贈されることに伴う設置費用

問 除雪業務 500万円

答 一斉除雪1回分の費用を計上していたが、除雪回数が増加が見込まれるための費用

問 学校給食米栽培奨励事業補助金 72万円

答 米価高騰による買い入れ額の見直しのための費用

議員 7人が登壇 **ズバリ!!** 村政を問う!



P 7

みどりかわ しげる
緑川 茂 議員

- 村民の防犯対策
- 教育現場の防犯対策
- 村民からの要望事項への対応



P 11

くぼ き こういち
窪木 浩一 議員

- 義務教育学校



P 8

ほろじょう としお
北條 利雄 議員

- 義務教育学校
- スクールバスの運行管理体制



P 12

ほんごう ひろよし
本郷 弘義 議員

- 空き家の放置による地域課題と対応



P 9

もり た しげお
森田 重男 議員

- 村道沿の支障木維持管理
- 山開き日の制定



P 13

えんどう たかひと
遠藤 貴人 議員

- 義務教育学校



P 10

もり たかゆき
森 隆之 議員

- 義務教育学校

一般質問は、議員の日常生活を通じて、住民の声や自身の考え方をもとに、村長、教育長などの方針を問うものです。鮫川村議会は、一人あたり90分の制限時間内であれば、質問の回数に制限はありません。



議事の進行

まえ た たけひさ
前田 武久 議長



出席議員

あおと よしゆき
青戸 義之 議員



緑川
茂
議員

問 安全安心な生活への防犯対策は

答 防犯カメラ設置範囲を拡大する

質問

一昨年から今年にかけて、駐車車両が傷つけられたり窓ガラスが割られる事案が発生し、村民に不安を与え問題となっている。最近では集会施設からエアコンの室外機盗難も連続して発生している。また、前田地内では道路わきに集積しておいた木材が盗まれた事件は記憶に新しい。各個人が自己責任において防犯を心掛けることは勿論であるが、村民の安全安心な生活を確保するた

めの村としての防犯対策、及び防犯カメラの今後の設置計画は。

答弁(村長)

村では、防災無線により窃盗事件情報、不審者情報の周知、広報誌やほつと通信での啓発や住民への注意喚起と防犯意識の向上に取り組んできた。さらに防犯指導隊や職員による見回り活動を実施している。地域全体での防犯対策が不可欠であり、今後地域住民との連携を一層強化した取組み

再質問

村民が安心して暮らせる環境整備と移住定住を促進するための支援策として、個人が防犯カメラを設置する場合成する制度を考慮してはどうか。

答弁(村長)

昨今、村内でも様々な事案が発生している事から今後、前向きに検討する。

答弁(教育長)

という報道がある。本村の小・中学校などの教育現場での防犯対策は。

各施設とも、玄関への防犯カメラ及びインターホン設置による来訪者の確認、また不審者侵入防止のため使用時以外は、出入口の施錠をしている。学校ごとにマニュアルを作成し、教職員間で共有、不審者対策を徹底するとともに毎年警察署と連携した訓練を実施している。校舎内には「さすまた」を配備しており、さらに軽量型防護盾の購入を検討している。

答弁(村長)

①区長を通しては8件であり、実施済件数3件、現在対応中3件、今後対応予定2件である。他にも直接寄せられる要望が年間30件以上ある。
②村道に関する要望が多い。道路補修や枝木伐採、防犯灯新設など住民の安全安心に直接関連する内容である。
③最長で34年前のものがある。一部実施しているが要望継続となっている。
④結果報告は、口頭又は文書で回答し、区長から住民へ適切に情報提供されるよう取り組んでいる。



宿ノ入交差点に設置された防犯カメラ

問 教育現場における防犯対策は

答 マニュアルを教職員間で共有

質問

時折、全国ニュースで学校に不審者が侵入して、問題行動を起こした

問 村民からの要望事項への対応は

答 要望結果は適切に情報提供する

質問

行政が地域住民の声を聞き、要望に添えていくことは住民サービス向上の観点からも重要なことである。以下につ

◀次のページは

一般質問

北條利雄議員・森田重男議員



北條 利雄 議員

問

義務教育学校計画の 説明内容の二転三転は

答

シミュレーション不足で心苦し思う



義務教育学校建設予定地が白紙撤回の旧修明高校鮫川校(村民運動場)

質問

義務教育学校の建設予定地とされた旧修明高校鮫川校(村民運動場)が白紙撤回された。一連の建設計画の手順等について、村民や保護者のあいだで期待とともに不安や不信感がある。建設地に法的縛りがあるか否かは、最優先調査項目である。議会、住民説明会などで説明内容が二転三転

している。計画を十分に検討していないとする憂慮の声、庁内協議も後手であるとの意見がある。これらの一連の経緯と手順、設計業者選定と発注、建設予定候補地選定などの整理と再確認を行うべき。さらに機能性が高くコンパクトな施設、身の丈にあつた建設への考えは。

答弁(教育長)

初期段階での建設用地の国県の法規制の主な調査で、県作成のハザードマップにも記載がないことから、建設しても問題は無いという判断で調査をしていない。建設に係る内容、予算の説明が二転三転しているという指摘は、村民の方々にご心配をおかけしていることに対し、心苦しく思っている。この原因は、財源に対するシミュレーション不足、さらに、建設予定地における安全性が担保できなかった。誇れる義務教育学校を建設して村民の期待に応えたい。機能の確保と財政も考慮しコンパクト化していく。十分な教育活動ができるために、どのような規模が適正かということを考えて実施設計をつくる。

答弁(村長)

修明鮫川校跡地の選定は、中心地で周辺にはトレーニングセンターなどの施設が整っている。利活用の面でも利便性があると考えた。

県との協議の中で、災害指定地域や跡地を利用して建物を建てた後の経過などが一切なかった。村の調査もまずいところはあつたとは思いますが、何の指摘もなく安心して場所を設定した。

答弁(副村長)

修明鮫川校跡地は、土砂災害警戒区域の指定はされていない。将来的に土砂災害警戒区域の指定調査を行う通知があつたと確認している。

答弁(教育長)

大きな社会問題となり、運転手確保に向けた課題がある。運行車両の駐車場の確保、入庫の車両点検、体調管理、管理拠点となる事務所など、雇用条件や勤務体制と運行管理体制は。

問 スクールバスの
運行管理体制は

答 直営に向けた安心
安全の確保を
整備する

質問

スクールバスは、委託業者が運行されていたが撤退することになり、村の直営になる。次年度以降の体制整備の進捗を問う。運転手不足

会計年度任用職員として6名を募集し、次年度当初から雇用する。朝夕の登下校と部活等、学校行事等の運行を中心とした短時間の雇用。運行管理は、担当を配置する。これまでも同様に、学校運営に支障がない体制、車両点検、健康管理ができる体制を整備する。運行に向けてのマニュアルは、現在運行されている内容を踏襲し、関係機関及び関係者が共有できるマニュアルを整備する。駐車場や事務所が必要であると考えており、現在精査している。



森田 重男 議員

問 支障木伐採の機械の導入は

答 新年度に予算を計上の予定

質問

村道の草刈り、支障木の管理に村シルバー人材センターに委託しているが、会員も高齢化、人材不足となり人力には限界がある。村では重機による草刈り、支障木伐採の実証実験を3回ほど検証してきた。1回目は、トラックの荷台から思うように作業が出来ない。2回目は重機によるロータリー式の機械で、後片づけはチップになり簡単にできる。また、メンテナンスも容易にできる有力な重機と思う。3回目はバリカンというはさ

み調で、あまり能力がなく、片づけ処理が大変と思う。早急に機械の導入を検討すべきでは。

答弁(村長)

村道、林道のうち、除雪対象路線の草刈りは、村内建設業者に委託し、このほかの路線は、村が直接草刈りや支障木伐採の作業をしている。草刈り業務は村シルバー人材センターに委託しているが支障木伐採は委託していない。支障木の伐採については、本来、土地所有者が行うべきものであることから、各行政区から

再質問

高額な機械であるが、予算は。

答弁(村長)

できるだけ安く、効率のいい機械を選定していく。

問 朝日山開きの日の制定を

答 関係者と総合的に検討する

質問

朝日山は、鮫川村を代表する山であり、富士山、太平洋側が見え

答弁(村長)

る、毎年元日には初日の出を見に県内外から多数の人が訪れる。登山の後には、さざり荘、手まめ・館などに寄り、村内の知名度アップ、関係人口にも期待できると思う、山開きの日を制定しては。

朝日山は貴重な観光資源であり、年間を通して多くの方が登山を楽しんでいる。特に、元日には、初日の出を望む登山者でにぎわうほか、年間を通じて村内の来訪につながっている、地域

の魅力発信や交流人口の拡大という観点からも、重要な自然資源であると認識している。山開きの日を設定するには登山道や周辺環境への安全対策、環境の整備、自然環境への影響など、慎重に考慮すべき点もある。令和7年3月に、村に生息する希少野生動植物を保護する条例を制定している。多様な生物の生態系に配慮した対策も必要であり、山開きの日の制定は今後、関係者の意見などを丁寧に関きながら検討していく。



登山道入口

重機による実証実験

次のページは

一般質問

森

隆之議員・窪木浩一議員



問

義務教育学校に賛同されない方への対応は

答

懇談会等を開催し理解を求めていく



青少年広場



修明高校鮫川校跡地

建設候補地はこの3箇所から選定される予定となっている。



鮫川中学校北側

再質問
賛同されない方は義務教育学校というシス

校、図書館、庁内各課からの意見聴取、併せて誰でも参加できるアンケートを行い段階的に進行状況について広報をした。今後は、実施設計を進める中で、学校の完成に向けた校舎等の配置や教育内容について懇談会等を開催する。

答弁(村長)

③義務教育学校の建設は、村の将来に大きな影響を及ぼす重要な事業。その財源、起債額や返済計画などを丁寧に説明し、村民の不安を払拭していくことは、行政として重要な責務であると認識している。今後、義務教育学校建設の事業内容や建設に伴う財源や返済計画等が整理されていく中で、担当部署のみならず、役場全体として基本的事項を共有し、全職員が、村民からの質問に対して一定の説明が行えるようにする。

答弁(教育長)

賛同していない方がいる事は、心苦しいところがある。今後、懇談会等で意見を聞く必要があると思う。義務教育学校がどういった学校なのかということの理解を求めていきたい。また賛同されない方は、将来に対する財源の不安が大きいのと思う。現段階では、設計において費用が確定し、財源額が確定しないと説明することもできない。ただ、村においては、国からの起債があり、32億の内、借金と想定される17億を全て村民が担うということではない。地方交付税により負担が軽減される。そういう説明もしてくるはいけないと思う。

質問

義務教育学校の設立や建設について。
①建設候補地は決定したのか。
②この事業に賛同されない村民もいると思うが、どのような点が疑問

なのか。詳しい聞き取りを行ったのか。
③事業費用額や資金調達や返済計画等、役場の全職員が村民に詳細な説明ができるのか。

答弁(教育長)

①建設候補地はまだ決定していない。
②村民に対して直接の聞き取り等は行ってない。一方、村議会や住民説明会、区長会での説明、村内の幼保小中学



窪木 浩一 議員

問 住民説明会や全戸アンケートを 開催する予定は

答 開催する予定は無い

質問

義務教育学校建設候補地の選定アンケートの反応と結果は。

答弁(教育長)

回答は4件で、2件は建設にお金を掛けないでとの意見で、1件は候補地に中学校敷地を挙げ、1件は小学校改築で無駄な支出を抑えてとの事、うち3件は住民説明会の要求をされた。

再質問

なぜ高齢化する本村で間口の狭いホームページによる募集なのか。また意見・要望の項目が無く意図的に村民の声を受付けてないと感じるが。

答弁(教育長)

QR参加で多くの方に答えを頂けるよう配慮した。閉ざす意図はない。

再質問

義務教育学校建設のデメリットを調べると●建設費で巨額の税金が動き自治体財政を圧

迫する●文科省補助金や交付金が建設ありきを生む●建設時の資金は補助金で潤うが、後の運営が困難となる●コンサル・設計・ICT・教

答弁(教育長)

材業者が群がる●教育改革＋公共事業＋補助金●利権化構造を生む●首長の実績作りになりやすい●住民合意が不十分なまま強行される…等の不信を招くが本事業は大丈夫か。

再質問

懇談会等を開き実施設計をする中で学校作りを進めていく。利権等はない。

再質問

約40億の事業なので子育て世代や村民に理解を得られるよう再び住民説明会や全戸アンケートを行う予定は。

答弁(教育長)

開催する予定はない。

再質問

基本設計等の費用内訳・成果物を確認したい。新候補地に移行した

場合、初期の予算内で設計変更は可能か。

答弁(教育長)

基本設計費用の内訳は施設基本設計に7200万円、宿ノ入地内の地形測量に780万円を支払済。成果物は公文書開示請求で閲覧可能で新候補地に変更後も基本設計に基づいて実施設計を開始し費用の上乗せは無い。

再質問

新候補地で立地や建設内容に変更があっても追加費用は無いのか。別途追加費用が必要だが実施設計費用に含まれている事は無いのか。

答弁(教育長)

基本設計は済んでおり実施設計は変更を踏まえた詳細設計の事で費用は固定されている。これ以上は掛からない。

再質問

義務教育学校のコンセプトと将来性は。

答弁(村長)

大自然の中、安全安心で心身とも健やかに育んで欲しいとの思いで環境を活かした学校作りをする。

再質問

教育環境改善、少子化対応、未来を担う人材育成、自然の中で学ぶ事でたくましい子供を育成する。

再質問

令和3年の議会で宗田村長(当時議員)が魅力ある学校作りは新校舎では無いと主張して

いたが村長になって心変わりした理由は。

答弁(村長)

小・中学校の耐用年数を当時は認識してなかった。

再質問

計画が二転三転しているが次の候補地・計画は大丈夫か、この機会に見直してはどうか。

答弁(村長)

建設的に進めるのであれば堂々と意見を頂き討論できればと願う。



再び開催が望まれる住民説明会

次のページは

一般質問

本郷弘義議員・遠藤貴人議員



本郷 弘義 議員

問

空き家の放置による 地域課題と対応の必要性は

答

適切な管理について 理解を得られるよう努めていく

質問

人口減少や世帯構成の急速な変化に伴い、空き家の増加が増えている。これらが長期間放置されることで、地域に様々な懸念が生じてくる。課題解決には、相続人等に対し不要となった建物の適切な管理を促す働きかけが必要である。

質問

容を丁寧に説明し、空き家放置による地域の影響や管理・解体の必要性を理解していただくことが重要と考えるが。

答弁(村長)

長期間放置された空き家は、防犯上のリスクに加え、小動物や害虫の繁殖による衛生環境の悪化、火災や倒壊の危険、景観の悪化など、住民生活や安全に深刻な影響を及ぼす可能性がある。不要建物の管理や解体は、所有者自ら

が進めることが基本である。解体は経済的負担が大きく、さらに建物の有無によって固定資産税額が異なる税制も影響している。住宅用地特例により、建物が存在する場合には税負担が軽減される制度となつている。相続者等に制度を丁寧に説明し、理解を得られるよう努めるとともに、売却や賃貸など多様な選択肢を提示することも重要である。

制度を推進しており、若者や子育て世帯の移住促進につながる住まいの確保や、起業希望者による店舗利用など、多様な活用を進めている。移住定住促進や地域活性化につながる資源として活用できるように、関係団体や地域住民との連携を深めて取り組んでいく。

再質問

先般、大分県佐賀関地区で発生した大火災では、約170棟が焼

損し、そのうち空き家が約4割を占めた。空き家が消火活動を妨げ、延焼リスクを高める要因になったと指摘されている。こうした事例は、空き家の適切な管理や活用の重要性を、改めて示すものである。程度の良い物件は、空き家バンクでの活用も可能である一方、築年数が経過し劣化した物件は、更地化によって、資産価値を高める方法もある。空き家は増加傾向にあるが、活用できる家は限られている。空き家が進行する前に、相談や支援等を行うことが重要では。

答弁(村長)

空き家が、車両や歩行者に及ぼす影響、並びにその責任の所在について、引き続き丁寧に説明していく。また、空き家バンクについては、残存物が多く登録が困難であるとの指摘もある。今後も所有者等と十分に協議を重ねながら適切な空き家対策を進めていく。



思い出の詰まった住宅



解体



更地



遠藤 貴人 議員

問 計画変更の経緯を村民に説明する責任があるのでは

答 説明会ではなく、広報やホームページで説明していく

質問

①事業費を圧縮するため、公民館機能などを合わせた複合施設から義務教育学校単体へ先行して整備する方針に変更されたが、当初から教育施設のみを基本設計であれば委託料が減額できたのではないか。

質の高い提案を選考できた可能性はないか。

③修明鮫川校跡地が土砂災害警戒区域に入ることが判明し、建設地を見直すことが表明された。これは判明から1週間足らずで決定されているが、このことで役場各課に意見を求めたり、プロジェクトチームの会議を経て決定したか。

⑤建設地の法的な規制は最優先で調査されるはず。これは、計画手順の誤りを認めざるを得ない。この責任の所在をどのように考えているか。また、これらの経緯を村民に説明する責任があるのではないか。

再質問

学校建設の発注を急いでいるか。

再質問

学校建設の計画当初、建設費は50億という金額だった。大きな金額を借り入れ、大きな複合施設を建設していくことに、楽観した部分はなかったか。

答弁(教育長)

①その通りだと考えている。

答弁(教育長)

義務教育学校基本構想の計画に沿って、実施している。

答弁(教育長)

村として借り入れる用意はあるという認識だった。

再質問

修明鮫川校跡地を開放すということは、同時に3億円の県補助金も手放すということになる。事業費の増加が一つの障壁となっている中で、なぜ簡単に修明鮫川校の建設予定地を見直したのか。

再質問

建物を造りたいという思いのみが先行した。楽観的な思いはあった。

再質問

様々な提言が職員からあるはずで、大きな事業には組織の力が必要だと感じている。職員の提案を、この事業に反映させていただけませんか。

答弁(教育長)

土砂災害警戒区域を解除するためには10億円の費用がかかる。3億円の補助金が、用地の造成費で消えてしまうという判断。

答弁(教育長)

懇談会を開催しながら実施設計の中に反映させていきたい。



解体工事が進む旧修明高校鮫川校

次のページは

ふるさとへの想いシリーズ(57)です

ふるさと鮫川への想い シリーズ⑤7

私は、西山字戸倉で生まれ、高校を卒業し、就職するまでの18年間を過ごしました。

鮫川村を離れて、すでに50年以上が経ち、70歳を過ぎて高齢者となった今、忘れかけている記憶を呼び戻しながら、思い出をたどってみたいと思います。

小学校は旧西山小学校で、現在は鮫小に統合され、新校舎は改装されグループホームになっています。学んだ校舎は木造の2階建てでした。自宅からの道のりを歩幅と歩数で距離を計測し、約4キロと推測した道を同級生や先輩、後輩達と共に歩いて通学しました。下校の途中で山に入り、野イチゴやアケビを採ったり、家から持ってきたミソや塩を田んぼの畔で野蒜(ノビル)やすかんぼ(スイバ)につけて食べ、遊びながら帰ったものです。



にほり 稲間 笠間

のり まさ ね 正典 さん

埼玉県さいたま市見沼区在住 (西山字戸倉出身)

プロフィール

- ・昭和29年生まれ
- ・西山小学校卒業
- ・鮫川中学校卒業
- ・福島県立石川高校卒業
- ・農林水産省に就職
- ・平成27年3月定年退職

丸めたボール、木を切ったままのバット、素手のグローブで、稲刈り後の田んぼを、グラウンド代わりにして遊んだのが始まりです。5年生の時、新任の先生の赴任をきっかけにソフトボールを始め、村の大会入賞を目指して練習をしました。勝敗は覚えていませんが、ソフトボールをすること自体が楽しく、同級生とは6年間共に過ごしました。

中学校は鮫川中学校で、「壇の岡」に新築される前の古い木造校舎でした。倒壊防止のための控え柱があったのを覚えています。2年生からは渡瀬中学校と統合され5クラスとなり、同級生も友人も増えました。通学距離は小学校より少し遠くなりましたが、多くの生徒は自転車通学でした。小学校でソフトボールを経験していたことから、迷わず野球部に入部しましたが、校庭が狭かったため、練習は村の運動の拠点、壇の岡



2014 還暦祝賀会

で行い、放課後自転車を走らせました。試合成績は2年生の新人戦郡大会で準優勝が最高でした。3年間、野球に打ち込んだ経験は、その後の人生に大いに役立ちました。

高校は、当初農家を継ぐつもりで、東白川農商高校農林科を志望しました。しかし父から「これからは農業よりも公務員が良い」との助言を受け、折しも減反政策が始まり、農業での先行きに不安を覚え急遽、県立石川高校に変え、進学しました。高校までは

自転車50分ほどの道のりでした。部活動は野球部がなかったため、2年生まではサッカーに挑戦しました。県石は国家公務員試験の模擬試験を2年生の秋頃から行っており、合格率は東北でも有数でした。私は国家公務員試験に合格し、昭和48年4月に神奈川県平塚市にあった農林省

(当時)の農業技術研究所に採用され、鮫川村を離れることになりました。出発の朝、父は囲炉裏に座ったままで、母が門口まで見送ってくれました。遠方の就職に、両親はさぞ寂しかっただろうと思います。

その後、農林水産省の職員として、42年間に9回の引越と10か所の職場を経験し、平成27年3月に東北農政局を最後に定年退職しました。この間に結婚して子供も生まれ、両親には孫(母にはひ孫も)を見せることができず、無事に定年まで勤められたのは、高校進学を支えてくれた両親、公務員への道を示してくれた父、高校進学をあきらめた弟、転勤ごとに新しい土地での生活を支えてくれた妻と子供達のお陰であり、感謝の思いしかありません。

定年後は民間団体で7年働き、現在は無職ですが、社会に少しでも役に立てればと思います。地域の活動に参加していません。実家には5月の連休や盆、正月には泊りがけで帰り、父の入院中や母が一人になつてからは、毎月顔を見に帰り、食事を共にしました。父は平成15年6月に、母は平成24年1月に亡くなり、実家は空き家となつてしまひ取り壊しました。現在鮫川村に帰るのは、お世話になってる方への挨拶のため、年に一度ほどになっています。

近年は、村内在住の同級生が同級会を開催してくれるので、参加して昔話を花を咲かせる時間が楽しみです。準備に携わっている同級生に心から感謝しています。



2025 41卒の同級会

編集後記

2月、「如月」は「寒さが続き、衣を重ねる時季」に由来するといわれます。厳しい冷え込みが続きますので、皆さまには健康に十分ご留意のうえ、温かくしてお過ごしください。

(広報編集委員)